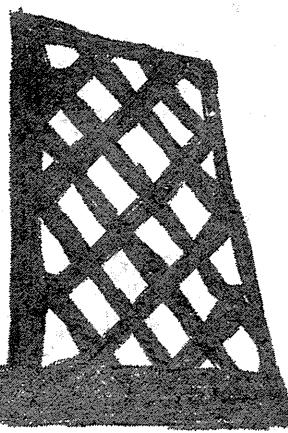


DASH

2



13

栄光学園蹴球部

Anie

12期～16期
K3 C2

WASH

ウォーター・ローの戦勝をもたらした

セントマーチン校の校庭である

(イーラン校はサッカー発祥の地の一つ)

ハント

欲するものがすぐ手に入ります。

ある時、
豚は幸運なのではない。

ジョウル・チャンドラ・ハリス

=MOKUJI=

栄光学園サッカー部		1
今年こそは	13期 吉田伸一	2
副主将とサッカーと	13期 青山明夫	4
各係誌上施政方針演説		
中学指導	13期 渡辺幸男	6
今年こそ		6
マネージャー		6
抜等がグランドの為に		7
ボール係から		7
世界サッカーこぼれ話		8
ごくろうさまでした		
今年一年を顧みて	12期 伊東一雄	9
中学この一年		11
中学県大会(冬)	14期 新倉正和	13
無責任イレブン特性表	13期 相川一	16
高校全国大会県予選		18
新人戦のこと		21
新人戦を戦いぬいて	13期 青山明夫	24
サッカーと私 一部員の母		26
喫煙室		27
スピリット	10期 宮坂研一	30
高一新年会レポート	13期 中村光世	32
中一とその入部の実際		
栄光蹴球部	16期 萩木正平	33
入部して	16期 望月晴文	34
蹴球部という木	13期 太田忠彦	35
DASHと私	13期 渡辺 浩	42
ニューストピック		43
昭和37年度総合成績		44
編集後記		46

栄光学園

サッカー部

12期

16期

創立十一年目

一九六三年度

さる一月十二日(土)にK3Cにおいて
一九六三年度役員選挙が行な
われた。参加人員はK三一一人(不
在投票) K二一九人・K一一人
C三一五人、計42人であつた。

その結果は次の通りである。

主将	◎吉田伸一	39	渡辺幸男	秋山武仁	相川亮一	渡辺 浩	中村文彦	新井正夫	村田謙二	青戸邦嗣	無効	1	1	1	1	1	1	1	1	3
副主将	◎青山明夫	27																		
渡辺幸男		5																		
村田謙二		4																		
佐藤純一		3																		
中村光世		1																		
戸田忠澄		1																		
無効		1																		
会計	◎佐藤純一	25																		
戸田忠澄		1																		
ボール係																				
グラウド係																				
連絡係																				
写真係																				
三才ムジ係																				
医療係																				
ダッシュ係																				
相川亮一																				
渡辺 浩																				

また、その他諸係には次のよう
な人間が就任した。

美術班 新井正夫

15期指導 渡辺幸男

16期指導 村田譲二

マネージャー 太田忠彦

頗不
同

選舉終了後吉田新主将の就任演説
が行なわれた。

（新主将吉田君紹介）

13期で吾田といえどすぐ「ああ
あのAオナス④といふほど彼がA
オナスしかとつたことのないのは
有名。その北米インディアン的風
貌とともになりひびいてる。操
行礼儀とも優。明朗で上の人から
も下の人からも信頼されるタイプ。
趣味は授業中先生をいじめること。
レインコートを着ること。口ぐせ
は足が長い。松島トモ子のファン。

わすかも知れない。でもこの精神
こそ我がサッカーチームの根っここと成
つて支えているものではないか。
塵を振つてみよう。今日のサッカ
ー部の存在は、一年の間先輩達
の情熱の汗によつて築かれてきた。
練習の半分をグランド整備につい
やした草分け期から、先輩達は、
未来のサッカーチームを夢みて頑張っ
たのだ。その彼等の心の支えは、
「The Family of Soccer」の精神だつた。
さて一体これはどう言う意味なの
だろう。

サッカーチーム創立以来、十一年目
の年を迎へ、チーム史上でも発展期
と呼ばれる時期に入れた。そこ
で、新らしい気持で、この一年の
部生活の目標を確認しなければな
らない。では僕の主将としての抱
負を述べてみよう。

家には、おじいさん、おばあさ
ん、父母、そして兄弟、姉妹が居
ます。父兄に当るのが高三の部員
です。直接試合に出で働きはしま
せんが、僕達のよいおやじです。
兄貴は今働き盛りの高ニです。彼
等は力いっぱい頑張りますが、困難



13期 吉田伸一

に出来た事、行き過ぎる事もあります。そんな時は、父母は勿論、じいさん、ばあさんまで手助けに来ります。じいさんは、普段はニコニコ孫達の活躍を見守つて思つたが、「こいつはイカン」と思うと相談に来ます。東郷先生にあたるでしょう。ばあさんは先輩、「あはは、共にがんばるさいからな」なんて笑わないで。彼ら等が、とても部を大切にしている

欠喫、怠慢がみつかり、内的発展のチャンスになるかも知れません。弟達は高一以下中一に至る部員です。高一是来年の準備、中三是中学の中心と学年によつて存り方に相違があるのは当然ですが、「弟

は、未来への希望です。ただまだ相違があるのは当然ですが、「弟

は、未来への希望です。ただまだ相違があるのは当然ですが、「弟

は、未来への希望です。ただまだ相違があるのは当然ですが、「弟

は、未来への希望です。ただまだ相違があるのは当然ですが、「弟

は、未来への希望です。ただまだ相違があるのは当然ですが、「弟

は、未来への希望です。ただまだ相違があるのは当然ですが、「弟

は、一枚の年賀状にも知られま

す。「関東、全国大会は、君達だ

しい言葉であろう。こんなすばら

い精神があるのなら、この中に

生きよう。そして、他の部へも、

学校内にもこの精神を広めよう。

対外試合に目を移そう。目標は

高校は、関東大会と全国大会。中

学は、夏、冬の県大会である。あ

さい。そしてこのに伝統の力、

技術の力が加えられて、初めて決

勝まで勝ち通せるのだと信する。

勉強について。サッカーをやつ

たので成績が落ちた。こんな言葉が聞かれるのは本当に残念だ。確

かに部に入る者は、入らない者よ

り勉強時間は少ないし、サッカー

部は運動部の中でも最も激しい活

動をするのであるから、時間的

肉体的ハンディキャップは大きい。

しかし、そこだけに目を止めては

いけない。サッカー部員は、部生

活に於て特別な力「ファイト」を

得る。この情熱が意気が、僕達を

サッカーに引きつけて離さない。

でも、この力をサッカーの練習に

のみ發揮するのは馬鹿者である。

何故勉強にもその同じファイトが現われない事があるか。短い時

間でも実感入れた勉強が効果的なのは誰もが経験している所である。

それから、勉強計画を立てると言

う事。学期の初めに×月と×月は

試合で日程がつぶれるから、前の

月に頑張っておこう。といった具

らない。しかし必ず来る。その時

からの一週間のプランを立てるの

は当然である。又友達と一緒に帰

り、授業でわからなかつた事など

話すのは、とても良い復習になる。

結論は、許された時間をフルに使

おうと言ふ事である。

いろいろ述べたが最後に、今、

新らしい年にあって、僕達の心に

あるファイトが、いつまでも続く

様に祈る。門出に際して、力強く

あるいは、た易いかも知れない。

踏み出した僕達、しかし、それは

ならない。何故サッカー部には副

主将を置いている部はそんなに多

事あの希望に満ちた出発を思い出すので起き上ろう。いつ来るかわからない。しかし必ず来る。その時に起き上つて欲しい。

副主将と

青山明夫 期13

二としの副主将は中Ⅲの指導が

なく一見仕事が少ないようだ。しかし官研はこう言つている。「副

主将たる者、部の母親たることを

自覺し、自ら以て難用係と心得べし。」栄光の教ある部の中で「副

主将を置いている部はそんなに多くはない。何故サッカー部には副主

将があるか、誰からもはつきり聞いたわけではないが私なりの解釈

をしてみる。サッカー部には所謂雑用が多い。ボールの手入れは勿論その管理、戸棚の整理、そうじETCそれに係はいるがその係の行き届いていない所を探して注意しやらせる仕事を受け持つ人が必要である。大体主将がその統一する役目を持つていて主将は練習や試合の事を色々考えなければならぬから非常に忙しい。だから練習や試合以外の所謂雑用を副主将が受け持ち、主将が練習や試合の事に充分に頭を使えるようになるのである。それからもちろん主将の相談相手でもある。大体こんな事を目標にしてやつて行くつもりである。

最近ダツシュをバラバラと見てみたが色々参考となることが多かった、十期林さんの文章「九期

はファイトで勝った、十期は団結で勝った……。十三期はどうだろう。ぜひ団結とファイトを兼ね備えたチームでありたいものだ。七期の全国大会の記録を見ると県外のチームと対戦した結果として「強い大きなキック」と「鋭いタックル」が栄光に不足していると書かれている。勿論大きく蹴るだけが能ではないだろうが、十三期バツクスについても一番の弱点と言われている所でもあるし、この二つの点を特に気を付けたい。(勿論一朝一夕には達成できないが……)こんな詩ものっていた。

△
戻る

王にする

未完成なるが故に

決してどどまる事を知らず

見下す事も知らぬ者

ヒたすら上に上にと頭をもたげ歯をくいしばつて休まず

絶えず高きにあこがれよ

王者への道はそう遠くないだろう。

又、創生期の頃は全員が「意氣」

に燃えていたようである。我々も新鮮な気持で新らしい「自分達のサッカー部」を作らつもりで頑張って行こう。そして勉強も忘れずに、

各係誌上施政

方針演説

中学指導

今年の抱負なんて言う物は無い
が、唯、中三を絞つて、技術的に
は勿論だが、精神的な強さを、つけさせたい。優勝なんかは考え方で
ない。努力もしないで、優勝優勝。
と騒いでも仕方がない。

これは近頃の高校生にも言えること
で、大して強くもないのに、優勝だ、
全国大会だと騒ぐ。こんな事は、二の次で、
まず自ら進んで練習に励み、強くなつた上で、さ
あ、全国大会へ出るそ、と言う氣

13、14期共、よく承知であろう。
15期も、何度もオレ達の決を見て
来るだろう。あんな経験をしたくな
いなら、一生懸命がんばりましょ
う。最後にサッカーの命であるホ
ールの手入れだけは忘れるなよ。

今年こそ……

大田忠彦

マネージャー

一般にマネージャーと言えば、

サッカーの写真といふものは、撮つてみなければわからないだろ
うが非常に難しいものである。人
はよく無責任にいう。「新聞の写
真に較べてお前のは……もっと
選手が緊張しているのを撮れよ」
等々。私程、部内で文句を言われ
ている人はない程、皆様、もつと
必要なものを作ることである。従

写真係を理解して下さい。勿論私
くちよろい物でないと言う事は、
も今年こそ決定的瞬間や大傑作を
撮らうとしてます。又私のカメラ
は全国大会で優勝する瞬間を待つ
ています。栄光サッカー部は日本
一、僕の写真は世界一。

つてマネージャー等と大きさな名

他にやるべき仕事は

前は返上して、ひたすらに部の向

一石灰・ライン引き等の管理、

上を目ざし、縁の下の力持ちとな

ニ草刈を頼む。等々。

るつもりである。以上オーバーで

である。

あるが、なるべく実行についた
く、又、皆様の御協力を給わりた
く、ここに公表いたします。

このグランドも今年で最後とな
るかも知れないが、最後の年くら
いはサッカリをやるのに最適なグ
ランドにしたい。

校舎かグランドの為に

中村文彦

ボール係から

グランド係として今年度やること

戸田忠澄

と。

一グランド整備

①石ころのないグランドにする。

定だ。そこで中二には四人でボ

②ローラーをかけることを実行

ル一個を使えるよう三個、中三に

しないことがないようにする。

は三人に一個、全部で五個、高校

ニゴールポストの塗り替え。

は三人に一個わたらのように十個、

三木ツツ修理

をわりあてる。したがつて、合計
十八個のボールを使う。

修理はボール係がやる。

穴ボコだらけのネットとはも

うお別れ。

『鬼互にも化粧』



空氣入れは諸君がやらねばならぬ。

世界サッカーこぼれ話

去年の世界サッカー選手権（ワールドカップ）でのお話を。ユーロ対ウルグアイの試合をラジオで聞いていたチリの少年が、ウルグアイの敗戦に興奮してショック死した。この少年は十七歳の熱狂的なウルヴァファンで、ユーロが三点目をあげたのを聞いたとたん、心臓マヒを起したもの。

○地元チリがソビエトを破ったことは、チリ国民の愛国心を盲目的に燃え上らせた。ヨルゲ・アレサンドリ大統領はアラジルとの準決勝を見るために公式行事の予定を

○選手の商品価値もワールドカップともなるとものすごいものであ

る。ブラジルの花形ペレは世界最高峰のネームバリューと技術をもち、トレードに出されれば三億円以上

の値打があるといわれる。又、ブラジルのFBCラインは全選手がこれに近い値打があるといわれ、栄光

学園の移転費を払つてもまだおつ

とみるや、ひらりと回りこんでボールが落ちてくるところをボレーチュートでネットにけりこんだ。

クはサッカー博物館に飾られ、出場したチリのイレブンの子供達には、特別な教育資金を贈るという。

はスエーデン観衆をさぞ熱狂的に喜びに投げこんだという。

○選手の商品価値もワールドカップともなるとものすごいものであ

る。ブラジルの花形ペレは世界最高峰のネームバリューと技術をもち、トレードに出されれば三億円以上

の値打があるといわれる。又、ブラジルのFBCラインは全選手がこれをおこなつた。マーガレット・スピングルさん（三三）というお嬢さんが連合会のレフェリー採用試験に合格したのが事のおこりだが、協会事務局長の抗議書には――

「女性がレフェリー試験に合格したこときいて、われとわがミミを疑つた。しかしどうやら彼女は好成績でつかつたらしい。さりながら女レフェリーの出現はゲームを混乱におとしいれるものであろう。」

ごじらうさま でした

十三期の反省

今年一年を顧みて

伊東一雄

十二期生が主体となつた一九六二年度サッカーチームの一年を振り返つてみたいと思う。

まず思い浮かるのは、記憶に新しい全国大会県予選である。神奈川県で一校出場できるというので、全員張り切つた。実に三年ぶりの決勝進出であった。二、三回戦はバックス不安ながらも勝ち、準決勝では茅ヶ崎高と接戦して延長

抽選勝をした。この時、バックスは見事に今までの汚名を返上して立派にゴールを守つた。決勝は、小田原高とで奇跡的に一点をあげて同点とし延長戦に入つたが、一度をとられ栄光ここまでが限界で遂に相手に屈した。遂に西宮行きを果せなかつた。

しかし、ここで敗因を考えると、栄光は準決勝の時に力を出し切つていたのではなかろうか。

確かにそ

の感があつた。抽選勝した時、皆喜びすぎてしまつた。そして決勝までの一週間、放課後の練習にまで熱が入つたが、もう京都へそつた。この時はバックスが弱体化つたが、やはり冷静さと判断力が欠けていたと思う。

の頃京都でやると思い込んでいたの話をばかりで決勝の相手小田原高など眼中になかつた。しかし小田原高も全国大会出場に闘志を燃やしていたのだ。こちらはもう、合宿も、大前さんと怪人のツイストや怪人が海へ飛び込んだりして楽しいもので、練習内容はゲー

ム中心であつたため辛いことはな
かつた。しかしこの練習の成果

が国体予選の時に表われなかつた
のは残念だつた。来年度は、今
合宿の事でもめているが、もしや
れるならば国体の前にやつて練習
の成績を十分出してもらいたい。
この一年は好成績を残したが、
まことにあつた。

練習の事では、一大会毎に基本が
らやり直して試合前にコンビネー
ションを作りあげたが、この方法
は良いと思えない。一度山をつ
くつて又こわしてつくり直したの
だ。これは練習をやる部員もつ
まらないと思つたに違ひない。
だから来年度は大きい目標へ関東
大会、全国大会)に全員で向つて
いつたらよいと思う。

又、試合の時にメンバーがそろ

関東大会のリーグ戦の時に多か?
た。試合前の練習をしていても、
一人、二人欠けていると、練習に
も身が入らず、試合への闘志も半
減してしまう。遅れて来る者だ
けでなく、チーム全体が困つてしま
うのだ。これは気のゆるみから
でるものであるから、試合への闘
志があればなくなるはずだ。

大会の前、創立記念祭の時にデ
ィスカッションを開いたが、これ
は全員の気持をまとめ、もりあげ
るのによかつた。全国大会予選
の時も皆、体調をととのえ、練習
一節の経験を土台にして、栄光サ
ッカー部をもつともつと発展させ
去る一因ともなろう。

以上今年一年の思い出す事を述べたが、来年は過去十年のサッカ
ー部の経験を土台にして、栄光サ
ッカー部をもつともつと発展させ
たのであの成績が得られたのだ。
日本の栄光サッカー部にしてほし
いものだ。

終り

一九六三年一月二十八日

中学二年の一年

十二期 佐藤 政

去年の四月、中三の指導をうけもつて半年あまり、冬の大会も終り、仕事もなくなつた今、高二の部員として過した二の一年をふりかえつてみたいと思う。

14期生と言えば、すぐ思いあらるのが、ニチームはできたというやうの中一時代。我々が中三のころこの14期生を見て大きな期待をかけたのはいゝまでもなかつた。そ
まことに減つてしまい、部活動も大
分沈滞氣味であつた。更に一年上
の13期は大活躍の直最中であつた。
何かにつけて13期と比較された彼
達は、何物かに圧迫されながら中

には高野が当ることになった。しかし技術は勿論、氣力の面におい
てもあそまつそのもの。その頃の日記には必ず「欠席が多い」「イ
ンステップに当つていな」、「ト
ラップが悪い」等のことが書いてある。良い事が書いてあると思う
と「今日は全員出席」といつに調
べたのが、ニチームはできたとい
う年をもつと元氣のあるゴツイ学年
にしてやろう、といふことだつた。
一学期に入ると大会といふもの
の14期生が、中二になると半分あ
るものが、ニチームはできたとい
う年をもつと元氣のあるゴツイ学年
にしてやろう、といふことだつた。
先づ考えたこと。それは、この学
年をもつと元氣のあるゴツイ学年
にしてやろう、といふことだつた。
た。夏のスポーツ大会中は毎日高
野に交つて指導者となつて、校とゲームを行つた。ある時は土
砂降りの雨の中でであつた。その
中で奮闘する君達の姿はまだ僕の
頭の中に残つてゐる。点差へ失点
も段々と小さくなり、毎日が樂
しい」だとか「胸がすくしなど
言葉が出ている。ある意味に於て

この試合を通じて各人が、自分達
は弱いんだ。たるんでいたのだ。
とわかれはそれでよい。続いて行
つた一中戦では押され放しでは
あつたが、一対の勝利を拾い、か
なりの自信がもてた。多少の困難
もあつたが、その後は相当にひき
しまつた練習を続けることができ
た。夏のスポーツ大会中は毎日高
野に交つて指導者となつて、校とゲームを行つた。ある時は土
砂降りの雨の中でであつた。その
中で奮闘する君達の姿はまだ僕の
頭の中に残つてゐる。点差へ失点
も段々と小さくなり、毎日が樂
しい」だとか「胸がすくしなど
言葉が出ている。ある意味に於て
はこの時がこの一年で一番充実し
ていたのではないかとさを思う。

しかしFWの弱さはいかんともしか
たく、それは大会通じて得点五点
という所にも表われていた。
夏休みの練習の時も、「この暑
いのに」と思いながら出かけたの
に君達の態度にうながされてたち
まち「やるぞ」という気に変った
。二学期に入つて舞岡という無名
のチームとゲームをやつて引分。
この時は、我所の弱さにがっかり
すると同時に、向うの強いのに驚
いた。これを機会に更に前進しよ
うということにした。十一月に行
つた片瀬中では悩みの種のFWの活
躍で大勝し、これならと思った。
そして最後の冬の大会。試験後の
強化練習では、毎日行う高校との
ゲームで得点すること目標にし
たが、遂にFKからの一点にとどま
つた。大会に入つて、浅野・大野

南・三崎と苦戦しながらも破つて
準決勝進出。再び舞岡と対戦。後
半ペナルティーをとられて一点失
い、ピッチになつたが、終了間際コ
ーナーから一点得て延長へ。そし
て抽選。敗けた。残念ではあつた
が、心のどこかに「仕方ないさ」

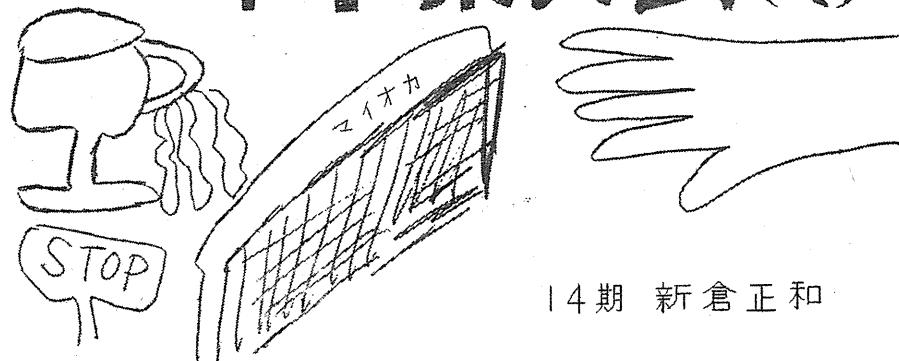
練習にも度々現われていたと思う
。それについて僕はこう答えた。
「優勝するような強いチームとな
うということにした。十一月に行
つた片瀬中では悩みの種のFWの活
躍で大勝し、これならと思った。
この最後に考えたことであり、最初
に考えたことだつた。

このことをこれから約13期そし
てそれ以下のみんなにいつておき
たい。それは、優勝するのもよい

が、それは部活動全般について全
部員がベストをつくしていいな
ら全く無意味である。技術が劣つ
てはならない。ということであ
る。そういう人を皆で助け合い、
又、その人々も進んで部活動に積
極的に参加するよう心掛けにい
るのである。こう書きながらも、僕
は何故もつと充実した学年を作
り上げられなかつたかと考え又、後
悔している。

最後に、冬の大会を通じて感じ
たことを言つておく。出場校は四
十ニという多數にもなり、大野南
・白駒、更に舞岡といった新鋭も
出てきている。最早一中、六角と
いったチームだけの時代は終り、
神奈川県の中学校サッカーも一つの
転換期にさしかかっているように思つた。

中学県大会(冬)



14期 新倉正和

中学部生活の総決算、冬の県大会は十二月半ばから始まつた。栄光は例年冬の大会でいい成績を示すので今年度の我々も相当の自信があつた。

一回戦 シード

二回戦

二回戦は一中グラウンドで23日早朝行なわれた。対浅野。前半、ほんとど敵コール前での混戦だったが栄光、決定的シュートがない。中ごろCF矢内が後向きの体勢から決めたクリーンシュートの他めぼしい“サッカーノ”がなく気のない

ゲームが続いた。前半終了。休憩中ムーアはものすごいけんまで作戦の注意をした。あの時のムーチンは普段とまるで別人のようになつなかつた。後半が始まつた。前半とはまるで變つて、フォードのダッシュ・ツーニングが断然よくなりハーフもこれに加わつた。矢内は中央にがんばつて、正面から決め、LI福田がやや遠くから決めた。両ワイングも体で敵を圧倒した。我々ドック三人は、球にさわらせてもらえず、GK吉川なんかは「安樂イスがほしい」といつてたかどうか知らないが、声ばかりだしてフォワードをなづけていた。全部で7点とつてリつけていた。GKはトントンペイサンのけんまくもあざまつた。

（アンバ）

川倉沢橋内は村藤内田原
吉新赤大宮野内佐矢福管

GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI UW

三回戦は対大野南。栄光前半は

全く精さいなく0点。後半一点入
れ始めてから敵を圧倒し、三点入
たのでみんな思い切つたプレーが
できなかつた。

アンバ山

福

川倉沢橋内口村藤内瀬原
吉新赤小宮野内佐矢中管

半なかば少しだれたが、敵を全く
受けた内村がゴール右からきれい
なセンタリングすれば、LW管原が
ヘッディングで8点目をとる。後

問題にしなかつた。

アンバ山

準々決勝対三崎。前半RI佐藤が

川倉沢橋内口村藤内田原
吉新赤大宮野内佐矢福管

までの県大会で余り動かなかつた
バックはよわつた。特にCH宮内は

得点してから敵を压到景気よく得
点した。両インナーを中心につォ
ワードがよく動き、特に福田、管
原のコンビがよかつた。バックも
フオワードからパスを受け、球を
左右に散らし、フオワードを助け
た。後半すぐ又一点入れる。敵に
二人目の迷キーパーが現われ、そ
れによるペナルティキックをわが

GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI LW
GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI LW
GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI LW

準決勝対舞岡中。二学期中舞岡
とは引き分けた事があつたが、得
点を許さなかつたので、割合自信
に悩んだ。それで敵の攻撃をつぶし
て行くので精一ぱいだつた。また
敵RBはキック力あり、直接RWの前
方へフライで上げてパスする為、榮
光LB LH CHの位置のとり方がうまく
あつた。しかし敵フオワードは
練習試合の時より数段強く、バツ
クとしても苦しい試合となつた。
の両ウイングが、両インナーがしゆ

ん足でない事が栄光バックスにも有利だった。それでも敵は、栄光のバックスと敵フォワードのせり合からこぼれるのを拾うのがうまくしばしば栄光ゴール方向に独走された。一方栄光アオワードも主に菅原、福田、中村でバスを通ししばしばチャンスもあつたが、トルツプ、シュートの速さ、体の大さに難点があつて点にはならなかつた、栄光少しおされ気味で前半が終つた。後半が始まると舞闇ややおし気味。バック前半程のあたりがなくなる。せり合いも圧倒されてきた。後六七分頃バック敵アオワードにかきまわされゴール前で混戦、栄光バック体や足の力の反則でペナルティをとられ、大会初めて先取得点された。しか

し栄光も両ウイングを走らせて攻め得点機をつかみ、コーナーも得るが得点できず、あせり始める。バックも無我夢中で上がる。後半半ば栄光バックのせり合いで敗け敵Uにバックラインを抜かれ、独走されるが、バック何とか追ついて、敵をもたつかせる間に、吉川があさえる。いよいよ後半もあと五分、バックも攻撃に参加しに栄光は、おしながらコーナーキックを得る。カッパが左から上がるが失敗、だがもう一本コーナーのチャンスがある。またカッパ、見事に上げ、敵バックもたつく間にフォワードがアツシュしてやつと同点——うれしかった、勝ったよううれしかった、後、栄光少しあし気味、決勝点のチャンスも充分あつたが、決定的なものがない

最後に、今の中二にはぜひがんばって一中と六中はもちろん、舞をぜひとも破ってもらいたい。

た。延長も栄光おし気味。決十分の間に互いに戻入らず、抽で栄光は敗けた。一中と決勝をるつもりできだ我々は、ついに願を果せなかつた。でも我々バクは一点こそペナルティで与えスの決勝以采初めて一点を許した。全力を出しての一点だから悔ってはいない。それにしてもフオードが懸命にいれたあの一点を失た時は、非常にうれしかつた。

アンバー

(茂)

川倉沢菅内口村藤村田原

第15期の優勝を祈るへ編集部

無責任イレブン特性表

十三期

相川亮一

一

渡辺幸男	相川亮一	戸田忠澄	佐藤純一	中村メイコ	太田忠彦	新井正夫	どなた	いろいろ	
麻糬売人	温泉のよびこみ番頭	飾りのついだダンプカト	放蕩息子	大店の	ミスター	桃屋の花ら	一寸呂は	呂は	
タコ焼	横浜市火	乾燥いも	ソース	玉	つかどん	ドカ弁	くもの	食物なら	
綿あめ屋	隠亡従業	角兵衛	沖縄料理屋	青年国支化普及員	風呂屋のたき	やき鳥屋のあやじ	煙何になる	煙何になる	
うちにかす事	多角経営の生きる道	直立猿人	純心裏願	留軍に駐	常に突撃一番	モテモテモテ	田畠のセグト	首人なぞらえ	
自雷也	板割の浅太郎	馬喰いの牛五郎	ちやうきり金太	三保の豚松	スバタマの園太郎	丁稚長松	1花札必勝伝	1愛読書	
校一覧表	笛吹童子	カブト町盛	2. 黄金バット	軍人頬論	2. 馬券	2. スコロク	2. その他愛好物	2. 愛読書	
横浜市内学	お金	大型中古オートバイ	2. ユーラ類	江上トミ	江上トミ	マルクス	マルクス	マルクス	
うちの、お父さん	寿女白菊	益田金六	星虫利子	全世界三枚目	全世界三枚目	大江美智子	頭は二番目	頭は二番目	
横浜案内	よたり専問	ジエリールズ	ナインゲール	六等身よわがもとへ	六等身よわがもとへ	大江美智子	額こそまで	額こそまで	

秋山武仁	門番の さんびら	美容院の おとうさん	最も良いのは 黙欲でんたん	忽比烈汗 フビライカン	帝国海軍の 最後
村田道一ジ	バナナボート の船長	金太郎アメ	だるめん	だるめん	さぬき
中村文彦	ブリモカルネラ 風猛獸調教	井戸堀人夫	黒馬田田長	黒馬田田長	黒馬田田長
青戸クニグ	モニキイバナナ	はたもち	チンドン屋の はたもち	チンドン屋の はたもち	チンドン屋の はたもち
渡辺 浩	スイッヂ(虫) (秋)	今川 焼	サーカスの 玉乗り	サーカスの 玉乗り	サーカスの 玉乗り
吉田伸二	モニキイバナナ	せんまい	常に にしない	常に にしない	常に にしない
塙谷英策	トランジスター 小僧	あから	太鼓持ち	太鼓持ち	太鼓持ち
山本ロクイチ	中古品の 吳服屋の いカメレオン	あから	お鼻(シフン) パチパチ	お鼻(シフン) パチパチ	お鼻(シフン) パチパチ
夜明けの ガス燈	赤 飯	ちくあぶ	野だい(坊ちゃん)	勘平(田舎芝居)	勘平(田舎芝居)
ドナツの穴	厄拂(新禪師) ナガシ	モニキイバナナ	山内一豊	山内一豊	山内一豊
る風中學修 二に行動身型	男子専科 ハ中年向	いつでも夢 をもつこと	時 間にしない	時 間にしない	時 間にしない
ヒンカートン	いざりの勝五郎	野だい(坊ちゃん)	山内一豊	山内一豊	山内一豊
2 / 全國大學覽表	2 体重計 アロマイド	2 体 重計 アロマイド	2 演説集 ノラゲードベル	2 演説集 ノラゲードベル	2 演説集 ノラゲードベル
アイシティン	吉田兼好	吉田兼好	山下 清	山下 清	山下 清
天中軒雲月	アメノウズメ ノミコト	アメノウズメ ノミコト	ナア 渡辺だ	ナア 渡辺だ	ナア 渡辺だ
ます五万回	いつでも大 れ	いつでも大 れ	フランソワーズ モレシャン	フランソワーズ モレシャン	フランソワーズ モレシャン

高校全国大会 県予選



←優勝旗



残念がる
←伊東氏

(決勝敗退)

オ一回戦はシードであった

オ三回戦対神奈川工業

於県営口一ン十一月十七日

オ二回戦

対川崎高	EIKO	5	1
		4	1
		KAWA KO	

榮光4	3	1	1
		神工	

敵バックスはばかりかいのがそ

ろつていてRBの人はすでに40の半
ばをこえたような顔と、一m90cm
に近い体躯の持ち主であつた。試
合がはじまつたころは、幾分、も
たついたが、變つたことといつた
らLW越智が後半鼻血をだしたこと
くらいで、9点もいれ楽勝であつ
た。だが、それでありながら、点
いれられたのは怠慢であろう。

(辛) 面氏

大藤山藤川口東辺藤田田智

審判佐青伊中樋伊渡佐村吉越

GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI LW

県営クレー・すべる・晴れ

今日の相手神工は夏休み死者(自
殺か事故か不明)を出し新聞に大き
く報道された程の猛練習を重ねた
ためか、関東大会で9-0で破つ
たころとくらべて、よほど強くな
つていた。後半2点リードしたと
ころで神工はキックオフ直後セン
タースリーが直接中央突破をここ
ろみ榮光バックス陣もろくも破ら
れ一点差にせまられたが、榮光そ
の後吉田・越智と着実に点を重ね
どうにか勝つことができた。

藤山藤川口川辺藤田田智審判
佐青伊中樋伊渡佐村吉越

GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI LW

関根氏

準決勝対茅ヶ崎高校

於県営口一ンナ一月ナハ日

栄光
○○/○
○○/○
茅ヶ崎
(栄光袖選勝)

いい試合を行うことができた。右のトータルのノドリの羅列にはそれこそ両軍の全力がこめられてるのである。一点が實に貴重に思えた試合だった。

茅ヶ崎には中学時代あなじみの首藤・瀧谷・山下などがいてみなチームの要となつてゐる。茅ヶ崎はもっぱらこの渋谷・首藤のドリブルで攻めこむが、これに対する栄光バックスは非常に好調でよくこれを押える。栄光フォワードも両ウイングを使ってやや優勢に試合を進めるがCH山下のあたりは強く、○一〇のまま前半をおわる。

ツア直前34分栄光CH樋口のハンド

GK RB LB RH CH LH RW RI CF LI LW
佐青相伊樋葉渡佐村吉越

審判岩渕氏

後半も互角のうちに試合がすすめられる。栄光のパス戦法に対し、茅ヶ崎は独走で攻の二モケークが多く、その度にはとどさせるが伊佐藤のファインプレーでゴーラは守られる。栄光もよく攻めるがシユートがことごとくはづれる。このあたりからプレーがはげしくなり、茅ヶ崎のCH山下足を負傷、それでも泣きながら球をけっこい

る。骨折だといつてによく球がけるものだ。感心というより尊敬の念さえ感じられる。まったく両校必死の戦いとなる。そして27分、茅ヶ崎のドリブルからの中のシートをキーパーがはじくところ、栄光はRW渡辺のドリブルからのシュートをやつた。太分狂つていたが試合の壮烈さに比例した大きな音がした。決勝には是非勝ちた

決勝戦対小田原高校

方フオワードが言語に絶するほど

たライナーのボールをCF村田よく

於県営口一ノン十一月三日 調子が悪く

バスは全く通らず、

つっこみ、ボールはゴールへころ

栄光 1
0 0 - 1 0
1 1 1 0
2 4 小田原高

中盤のせり合いはことごとく負けてしまふ。

たり地に倒れる。しかしこの時村田にハンドがあり、結局得点にはならなかつた。このあたりから小田校再び調子を上げ、延長に入り

後半に入つてもしばらくフオワードの不調はつづく。バックスが

遂に一点、一点と得点され、最後

向うのブロックでは激しいぶ
しあいが行なわれていた。実力ナ
ンバーワンと思われていた湘南を
慶應が破り、その慶應に9分通り
負けかけて最後の8分で逆転して

20分と時間は空しく過ぎ、県営ゲ
ランドには夕闇がおりはじめる。

遂に一点、一点と得点され、最後
CFの独走で決定的な4点目を入れ
られ笛となつた。

決勝に進出してきたのがこの小田
原高である。全国大会では小田高

あせりがちらつき出す。あと10分
にあたるのが宿命のようである。

結果今年は関東全国二大々会で
ないといふ26分敵バックスにハシ
ドがある。ゴールまで20跳程ある。

小田高は予想通り俊足の脚力石
を中心に行きこんでくる。しばらく

CF村田が蹴る。球は右すみへ、そ
してネットをやらした。同点々々。

共に小田校相手に一点のために代
表権が得られなかつた。残念とい
うより言葉はない。毎年くり返す

く栄光陣かさまわされて10分左か
らのコーナーが直接栄光ゴールに

年こそは、是非とも全国大会出場
を達成して欲しい。

審判

藤山川口山辺藤田田路国鈴木氏

佐青相植葉渡佐村吉越審池田氏

開敵をゴール前でおさえるが、一
き足立つ。29分RW渡辺が中に返し

GK RB LB CH LH RW RI CF LI LW 線松沢氏

三学期の目標だった

そのまま押し切った。

新人戦

マ二回戦 対湘南 (三月十日)

藤沢ローン

栄光 3-10 湘南

マ一回戦 対慶応 (三月三日)

藤沢クレー

いや、少し持ちすぎで、かさつて
なかなか点が入らない。しかし9

今度は、去年実力県下一と言わ
れた湘南とである。

栄光 1-1 慶応

分、C下村田が敵のバックバスを
奮い取り、キーパーをかわしてゴ
ールへたたきこんだ。

後半、6分コーナーキックから
村田セントアーリング、しー吉田へ
ドで一点追加。しかし8分には
因縁走して得点する。しかし4分
には湘南、右コーナーキックから
ヘッディングでいれかえす。そし
て6分にはしー飯田が、早いドリ
ブルから一点追加し、栄光逆転さ
れる。だが栄光も11分渡辺奎に對

-21-

一回戦から対戦相手は慶応だと
いうので幾分心配した。練習は始
めたが青戸と相川がまだこない。
だが、まもなく飛んで来て、試合
は無事に始った。

前半、キックオフからほとんど
慶応陣内で試合がすすむ。フオワ
ーと落ちついて、球をキーাする。

GTK青戸ともつれながらも遠い
位置からシュートし、いれかえし
た。だが栄光は21分、またもコー
ナキックの混戦から佐藤が得点し
た。しかし12分にはしー相川がク

リアーをミスし、湘南得点する。ここまでのに二分間に、両ティーバックが弱いというべきか。そしてそれから栄光懸命の攻撃をする。そして23分R1佐藤が独走し、ついに3対3の同点にこぎつけ、試合は小リだしに戻った。

後半、今度は一点を争う試合となり、押しつ押されつ、懸命の死闘が続く。両ティームともどうしても得点できない。そして、もは

ムあわせ5点をいれたわけである。

なりひびいた。こうして栄光は湘南を破り、劇的な勝利を得たのである。

試合後、審判関根氏から栄光のアレーがあらいとの注意を受けた。全国大会の時にはあとなしすぎるといわれたが。

マ準々決勝 対Y校 (三月十六日)

栄光
2-1-1
Y校

藤沢クレー

マ準々決勝 対Y校 (三月十六日)

Y校の選手が準急に乗ってしまつて小田原へ行ってしまったとか

Y校は十五分おくれ、Y校の女性スコアラーのけたにましい声

栄光
2-1-0
湘南通信

とともに始まった。

前半、15分、栄光バックスのマ

湘南通信は自衛隊の内部にある

ム終了をしらせるホイッスルが、

のだと、そこで、初出場ながら、二二

した。しかし24分には栄光コーナーキックからゴール前で球をまわすみに決め、逆転に成功した。後半、鼻血をだして一時引込んだ吉田、猛烈なファイトを見せ、16分、21分ともに一人でバックスイスイぬいて得点した。だが29分にはY校のエース北村に長いドリブルをゆるし、一点目をいれられた。しかしそのまま試合終了。

まで来た。その軍隊式のあじきで
まず度肝をぬかれ、試合開始。

前半・湘南通信よくはしりまわ

るが無得点。一方栄光 CF 村田再
三縦バスをうけ、アリーになつた
がいすれも外した。しかしさすが
の湘南通信にも疲労の色がみえて
きた22分、村田が三角バスから得
点した。

後半、2分 R W 渡辺塁からのバ
スをうけた佐藤が倒れながらも二
点目を、20分には同じ佐藤が独走
し、ショートは飛びだしてきたキ
ーパーの横をすりぬけて三点目を
いた。そのまま試合は終了し、
新人戦唯一の無失点試合を記録し
た。

前半、19分 鎌学は左のコーナー
キックから、センターリングをし
なんと鎌学 RF 菅野がショートを
はなち、先取点を得た。しかし23
分、栄光は CF 村田 → R W 渡辺塁
に落し、そのまま得点を奪った。

ついに決勝である。しかし土曜
日で、出場する高一は午前中二つ
の臨時試験があり、いそいできた
がろくな練習もできないまま試合
開始となり、かなりの条件は悪く
思われた。

前半、19分 鎌学は左のコーナー
キックから、センターリングをし
なんと鎌学 RF 菅野がショートを
はなち、先取点を得た。しかし23
分、栄光は CF 村田 → R W 渡辺塁
に落し、そのまま得点を奪った。
一方鎌学も高一ながらエースのア
ラジル帰りの吉光を中心に入命に
攻撃をする。だが吉光のはなつた
ショートも栄光 GK 青戸のファイ
ンプレーにはばまれ、鎌倉得点で
きない。また佐藤にまけてはなら
じと CF 村田は30分、ハーフライ
ン附近から見事なドリブルをみせ
た。そしてホイップ

一 戸 山 村 谷 山 川 辺 藤 田 田 谷 通
シ 青 戸 中 塩 秋 相 渡 佐 村 吉 塩 渡
☆ GK RF LF KH CH LH KW RI CF LI LW
{ (第) (6)

△ 決勝 対 鎌倉 学園 (三月三日)
藤沢ローラン

栄光 1-1 鎌学

1 キックでゴールにたたきこんだ。
このすばらしいプレーに、見学に
来ていた全栄光サッカー部員が大
喜びをしたのは言うまでもない。

一方鎌学も高一ながらエースのア
ラジル帰りの吉光を中心に入命に
攻撃をする。だが吉光のはなつた
ショートも栄光 GK 青戸のファイ
ンプレーにはばまれ、鎌倉得点で
きない。また佐藤にまけてはなら
じと CF 村田は30分、ハーフライ
ン附近から見事なドリブルをみせ
た。そしてホイップ

新人戦を

13期 青山明夫

去年は残念ながらどの大会にも優勝できなかつた。新人戦に第1ヶ崎に敗れたのを始め関東大会では鎌学、小田校に、国体では湘南、全国大会では又も小田校に無念の敗をのんでしまつた。湘南戦は完敗であつたが、関東大会と全国大會はいずれも延長戦にもつれこんだ後バックの弱さからねばり負けして負けてゐる。昨年一年バックの弱体は終始一貫して先輩は勿論部内でも言われていた。そして今年13期の年が來た。バックの強化が最大の問題であるとされ、今年の始めの練習は大分バックスの基礎的な力に重点が置かれた。そ

して今年の目標としては勿論関東大会、全国大会があげられ、新人戦をどう扱うかが一応問題となつた。新人戦でバックがみじめな所を暴露するとき、ますます自信をなくすのではないか等と色々意見が出たが、結局関東大会への一つが出てたが、結局関東大会への一つの準備、足がかりとして新人戦に前によく言つたようなバックの不安は出場しようということになつた。前に言つたよなバックの不安はあつたが実力だめしといふこともあつて、新人戦には特別な練習はせず専ら基礎練習ばかりをやつてしまつた。練習内容は大体次のようである。ホワードのショートは前からのゴロと横からが半々位。バックスは前からばかりとひねり。あとは普段の通りで試合の直前に少々コンビ・つっ込み等の練習をしただけ。

こんな調子で大会に出場した誤で大会、全国大会があげられ、新人戦をどう扱うかが一応問題となつた。新人戦でバックがみじめなもの足りなかつた。何か一本欠けているような気がして仕様がない。14期のバックは強いからボジョンを全部取られてしまうような気まで起つてくる。ところが次に對湘南戦で立て続けに3点入れられたとき「俺達は弱いんだ」とはつきり思つた。湘南フォワードの鋭いパスにかかつたら一たまりはつまらぬ。死に走つてもちぐはぐで何もかもうまく行かない。そんな気持ちになつた。対湘南は御存知の通り4勝つたが対湘南通信、対鎌学戦で

は一人でもち込まれると弱いが何とかもち応えねバリが出て来たようを感じた。

各試合の反省会でも毎度去年の統計でバツツクがたにかれていた。しかし今大会中少しずつでも安定感が増して来たことは確かであると

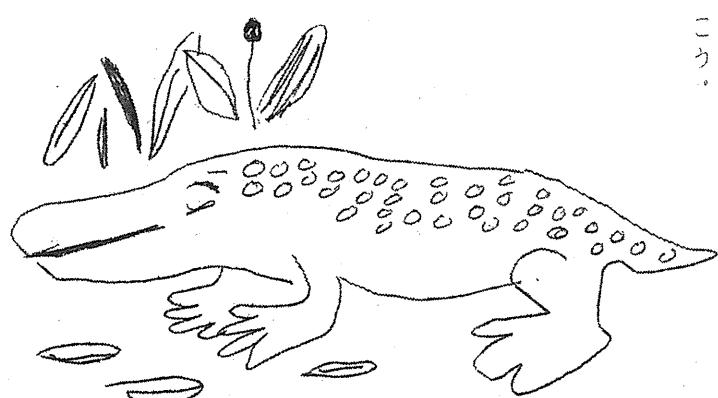
思う。昨年はバツツクが弱くて勝てる試合をそして勝たなければならなかつた重大な試合を三つ失つた。今年はそんな負け方はしたくないと思う。もうあんなみじめな思いはしたくない。こう感じるのは僕だけではないだろう。しかしこの大會を通してバツツクに何か進歩があつたらしい。それは大きくはない。そしてまだまだ欠点はあり過ぎるほどある。鎌学に一点入れられたるし、相手の一人にドリブルで持

ち込まれると何なく抜かれる。味である。内容がバツツクに片寄つてもそれらが少しずつ直つて行きそうな気がする。それは我々自身の努力練習にかかる。バツツクの奮起が期待されて良いと思う。とにかくこれは今大会の一つの収穫であると思う。

最後に、新人戦にほとんど基礎練習だけでしかも僕だけのメンバーレイ優勝したのはそうないとと思う。

喜ばしいことである。太いにうれしい。しかし僕達にとつて新人戦は本来の目的ではなかつたのである。それは関東大会であり全国大會である。そして本当の目的に何

つての進撃はこれから始まるのである。気をゆるめることなく練習に励まなければならない。本来の目的に失敗したら途中がいかにすこらしくともそれらはすべて無意



サッカーと私

一部員の母

ならやりなさい。」

数日後

二郎「お母さん、退部届書いてくれ」
母「退部届つてサッカー部を?」

三郎「そうだよ」

太郎「末学期キャブテンかも知れないけど、どうだろう?」
父「フウン、どうやつて選ぶのだ」

太郎「大体選挙だ」

母「技術的には貴方より上手な人も居るんでしよう?」
太郎「そりや居るよ」

父「スポーツと勉強を両立させられるかね?」

太郎「そりや少しは下るかも知れない」
母「もうそろく身を入れて本でも詭まなけりやいけないでしよう?」

父「しかしスポーツはいいよ。人間を創る。両立させる様努力する

いる。

新人戦優勝お目出度うございます

皆さんの一人くがどんなに苦労して今日のこの栄冠をかち得たか

教々の負傷を思い出して涙の出る

母仰角今までがんばつて来たのだしさめて学期末までつづけたら?」
二郎そんな事云つたつて駄目なも

のは駄目さ。人間それれ能力も

体力も違うんだから。お母さんなんかにやわからぬよ。この気持

子供は本う、サッカーには唯ダツ

シユあるのみと。しかし私達は望

みたい! 勝つ事を知つて負ける

事を知らなければいけない、

二郎「ニ点入れた。〇〇さんが兄弟

貴に似てショボイ入れ方するぞさ

太郎「ナニ! アイツそんな事云

つたのか アハ、」

こうして二郎自身氣のつかぬまま

自らを知つて謙虚にその欠点に猛進して下さい。

終りに御指導下さいました諸先生

並びに先輩の方々に深い感謝を捧げます。

○新記録

一月四日の十三期新年会ではい
くつかの驚異的な記録がうまれた、

食べたミカン一九六個(一箱)

○誰だ?

(参加12人だったので一人平均

主将選挙の際、佐藤鉢^{ドン}一君に一
票が投げられた、

8個となる。)

食べた肉

一 3kg(すきやき)

会の時間 一 9時間半

相川君があごつた、

○雅号?

一 ケイキ20個

この間高校では各々雅号をつけ
るのがはやつた。曰く黄河、曰く

○オト狂寝話
その日戸田君はおとくいのオト
トイビでござたがそれがひどいオン
ボロ。助手二人が押してエンジン
をかけること四度。全体は茶色の
サビでおおわれていてヘッドライ

トはコードを手でよじつてつなげ
る仕掛け。やつと帰途についたが、
十六期の諸君のスタミナと、そ



途中の坂でついにエンコし、そこ
においてそのまま歩いて帰ったそうな、

のランニングは定評のある所。ある日「さあ鍛えてやろう」とはりきつて、とびだした指導の××君、懸命のランニングとウサギトビをやつたが、自分が先にバテてしまつた。練習の後で、今日の練習はきびしかつたろう」16期「ううん、いつもよりかるかづいた」「……」

一日おいた次の月曜日××君は足が痛くて、中間体操を休んだ。(本人の名前の方、特に名を秘す)

練習中グラウンドに落ちていたカシシャク玉をふんだ伊東君。音

に驚いてうつすらと煙をあげているスパイクの裏を見ていうには、「ありや、オレのスパイク燃えてるそ！」あわて者がバケツに水を入れて、飛んで来たとか、来なかつたとか。

○「山の村長、審判をやる」この間の新人戦で名前をうつたのは「さといも頭」で有名なレフリーグ根氏である。対丫校戦ではラインズマンをやっている14期吉川君があまり動かなかつたので注意した。14期の悪童達がそれを見て「ワーワー」と言つたところ、グ根氏は試合そつちのけで「コラ」とユニフォームへ夏用なので半袖)をジロツと見てレフリーの鈴木中さんが言つた、「栄光力不ねえな」ではない。念のため。

ジョージ君つかさず、「県で援助してくださいよ」中さんニヤリとして、「関係ねえよ」慶応の人「果然……」

○練習、伊東君奇行録

練習中グラウンドに落ちていたカシシャク玉をふんだ伊東君。音

○「山の村長、審判をやる」この間の新人戦で名前をうつたのは「さといも頭」で有名なレフリーグ根氏である。対丫校戦では

ラインズマンをやっている14期吉川君があまり動かなかつたので注意した。14期の悪童達がそれを見て「ワーワー」と言つたところ、グ根氏は試合そつちのけで「コラ」とユニフォームへ夏用なので半袖)をジロツと見てレフリーの鈴木中さんが言つた、「栄光力不ねえな」ではない。念のため。

ジョージ君つかさず、「県で援助してくださいよ」中さんニヤリとして、「関係ねえよ」慶応の人「果然……」

○実話特報

この間の「エイコ」「ニュース」「ラッシュ」に、原因不明で坊主頭になつた工君」と紹介されたのは12期の伊藤君である(通称、デ

ラッシュ)に、原因不明で坊主頭になつた工君」と紹介されたのは12期の伊藤君である(通称、デ

ライイトウ)。彼が坊主頭になつた。二月三日の新人戦の対慶応戦のものは、床屋で髪にコテをかけてもはじめ、わが栄光チームのボール奮して、「マイボール！」マイボ

「ル！」とさけぶ、Y校バックスには「ダマレッ！」と一喝した。一度肝をぬかれたY校、「スマセン。」

○ミスY校

Y校の女性スコアラー山本ヒサ

ヨ嬢は有名だが、二の間の新人戦では二代目が登場した。試合中も

懸命の声援、「オチツイテネッ！」

○渋の闘病日記

「シッカリネー！」山本嬢のヒヤヤカ調のシャーベット・トーンから明かるい感じのフラワー・モードへ急転換で新らしい個性を發揮し、皆の心をまどわした。

帰りにジヨリジ君、「サヨナラ。また会いましょうね。」彼女ニッコリと笑って、「ありがとうございました。」

○

その左手はひょうそうになつてしましました。そこでまた医者に行

が目立つたが、そこでGK青戸君はペナルティエリヤの外で持つている戸田君にバス、ところが弱すぎで球は途中でストップ。またも

やジヨーデ君叫ぶ。「オーケイ。ソボタにやろうぜ、し敵も思わず苦笑。

やけでした、さあ何回かがと病気をしたのでしよう。

○つれるかい（宮坂氏寄稿）

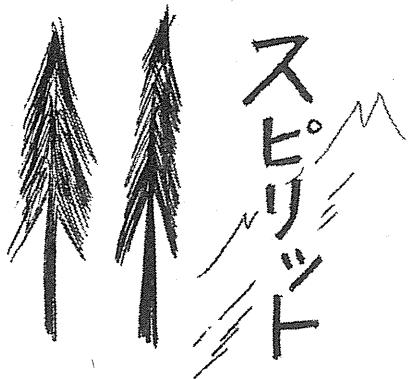
二学期の試験が終つてのんびり帰つて行くK、T、Mの三人。

16期の飯沼君は去年ある日トゲを左手にさしました、それはやがらぬ明かりを感じのフラワー・モードへ急転換で新らしい個性を發揮してうんざしました。そこで医者に行って切つてもらい、ほうたりを巻いてもらいました。次には、「どうかなるかよ。」Mも曰く何がよー」とKはじめくさつて曰く「そうだなあ。」と笑つて、「ありがとうございます。」

元々こうをはりました。すると、大笑。やがてT、笑いをこらえてばんこうまけをして手がかぶれてしましました。その内に、

だ。せいぜいいいだろう。」

スピリット



10期 坂研一

ではないはずだ。「やろう」と決心したことを見分ののらない時に立派にすることが真のF-IGH-Tだ。F-IGH-Tの出ない時に意志的に出そうとし、そのように行動すれば、F-IGH-Tは出るものであり出そうとする行為そのものがF-IGH-Tの一つの形体である。

栄光精神について

F-IGH-Tは気分の問題ではないと思う。ある程度は気分的要素を含むかも知れないが、やはり意志的なものであろう。意志さえあれば、強固な意志さえあれば、強固な意志そのものがF-IGH-Tと言えるだろうが、気分がのらないからF-IGH-Tが出ないというこ

とはないはずだ。「やろう」と決心したことを見分ののらない時に立派にすることが真のF-IGH-Tだ。どこの学校にも独特の校風というものがある。それを他の学校でXの精神と言わないのは、又は言えないのは栄光精神がすばぬけたある深みを持つていることを表わしているのではないだろうか。つべこべとこの精神の定義云々を言わずに考え行動することだ。まちがつて栄光に入ったのでなければ学園生活をしていて自然と知らぬうちに、栄光精神の全部とは言えなくとも、一部は身についてくるものである。

「これこそ栄光精神をあらわすべき時ですべきことをする。」これは栄光精神の大部を言つてゐるが全部であるとは言えないよう気がする。

栄光精神とはとどのつまりは栄光の校風全体のことではないか。どこの学校にも独特の校風といふものがいる。それを他の学校でXの精神と言わないのは、又は言えないのは栄光精神がすばぬけたある深みを持つていることを表わしているのではないだろうか。つべこべとこの精神の定義云々を言わずに考え行動することだ。まちがつて栄光に入ったのでなければ学園生活をしていて自然と知らぬうちに、栄光精神の全部とは言えなくとも、一部は身についてくるものである。

「これこそ栄光精神をあらわすべき時ですべきことをする。」これは栄光精神の大部を言つてゐるが全部であるとは言えないよう気がする。

サッカートについて

サッカートほど技巧的で、うま味をあじわえるスポーツはないと思う。あれだけの広いコートでスポーツとしては多人数であり、しかも手をつかえないのだから、ラグビー・やアメフトの独走のような強引なプレーはできない。部室にはつてある新聞の写真、あのフェイントモーションなど実に巧妙である。ドリブルの時のボールコントロール、ロングキックで正確に味方FWにわたすインステップ、フェイントをかけながらの浮球トランプ、そしてバスの正確さ、コントロールのよさ等数えあげるとキリのない微妙なプレーの連続である。

人間の能力をフルに使った総合芸術であるとさえ思える。

「学問はさぐればさぐるほど深いなんて言うけれど、サッカーも練習すればする程うまくなるよ」

うだ。限りなく……。まじめにあせらずよく練習すれば、ヤニヤミの石原さんも夢ではない。毎年開催東大会、全国大会に出、必らず一人はエースに出られるようになつたらすばらしいと思う。F-1GPのある練習が続けられれば夢ではないだろう。

そしてまたよく勉強して下さい。勉強もすればするほどさらに深いところおもしろい所がわかるそうだから。

このような点で我々は先生方特に神父様方には文句の言えた義理ではないのだが、

我々にもこのような専い労働をする機会があるのに、高二の主将、副主将、指導者等はこの好例である。各係、中学生の部室の掃除、ボールの手入れなどは、この種の専い労働である。眞に尊敬されし

無報酬の労働について

のにけん命に苦しんで働く人はどう尊敬に価する人はない、

いくら偉そうな事を言つても、実際に内容のあることを言つても、それほどの価値はないが、報酬が目的ではなく、話すこと自体に目的を持つ人の話には価値があると思う。

かつたら、このような仕事をこそ
はじめてやるべきだう。

又、主将、副主将そしてコーキ
など、無報酬で働いてくれるのだから、高校生諸君そして中学生諸君、彼等に少なくとも精神的な報酬をあたえるようにして下さい。もちろんダッシュショ係にも。

高一新年会報告

十三期 中村光世

レポート

時は昭和三十八年の一月四日の
私の家では十三期生の新年会が催
された。ワシチヤンはお得意の紙袋をかつぎ、戸田は戸田でキタネエオートバイに乗り各々我家にや
つて来た。十時半頃皆集り、すぐ
に花札・トランプ・百人一首・ハ
チンコみたいの等をやり始めた。
花札では自称アロの新井が他を寄
せつけず、百人一首は上句だけで
取れるのは吉田だけで他は上句を
読んでいる間タタミのけはをむし
つてゐるだけであつた。

チヤン・戸田・相川等の活躍はめ
ざましく私はスキ焼のニオイしか
かがなかつた。また相川はこの時
の為に朝飯を抜かしたそうである
から肉がまだ赤いうちに胃袋へ入
れてしまつた。飯がすむと去年と
同じくゴルフ大会を開いたが今度
は四五名ずつでチームを作り団体
でも覇権を争うこととした。結局
地の利と実力ナンバーワンの私が
個人優勝(ハーフ16で13)、太田、新井、秋
山吉田のチームが団体優勝した。

次いで屋根にゴルフボールを投げ
てセービングの変形をやり始めた。
この競技は胴の長い者がうまく
ジョージは実にうまかつた。そ
の後全員が飛んだり、跳ねたりし
ているところを写真に撮つた。そ
うそろ陽が下り始めたので、部屋
にもどつて、吉田氏提案の数を言

飯になると例の如く新井、ワシ

つていく遊びをし、負けた者は隠し芸をする事にした。いつどう多く負けて歌を三回も歌つた青山の歌は病に似あわず哀愁のこもつて立っているのに驚いた。吉田や太田のは調子のはずれた良さがあつた。

次いでジエスチャーをする。そして最後にしりとり歌合戦をやつた。

以上延々九時間にわたつていろいろな事をやつたが、冬の一日を我

々は楽しく過したのである。聞くところによると新年会をやつたの

は十三期だけだそうであるが、他の学年もやつた方がよいと思う。年に一度よく遊び、よく笑い、よく食べるといふことは、部員間の親睦を強め、又他人のいつも見られない面を見る事は部生活に必要な事と思う。

入学当時はいろいろといそがしかったが、一年もたつともう校風に

中一と その入部の実際

栄光蹴球部

十六期 茂木正平

手帳を見て「あや」と思つた。

二月一日、第一次入学試験と、あ

広いグラウンドを一ぱいに、かけまわる。
それがファイトがある中にもフエアである。

審判に抗議する事など、ほとんどない。

ある人に言わせると

「あまりスマートなスポーツでない。」

「第一足が短かくて、パンツが長

もある人は、

吾が部「栄光サッカー部」に対する感想がこれである。

「入った理由ー。」

それはまず第一に強いと、いうことだ。「どうせ入るなら強い部の方がー。」だれだつてこう考えるだろう。

それから男らしいからだ。

-33-

「試合が単調である。」

たしかにその通りである。

だが、とにかくファイトのあるスポーツだ。おまけに体力が大変い

る。

こんな事が理由だが、入部後も

皆とても親切で家庭的小ない気が

ある。

この事は前から聞いて居た事だが、入ってからも期待を裏切られる様な事はなかつた。

しかし、練習は実につらい。

実によく走る。

僕は走るのは苦手だ特に長いのは全然だめだ。

「苦あらば樂あり」

「沢山練習すればするだけ得るものが多い」

先輩はよく言う。

僕らはこれから中二になるが、

これからが大変だそうだ。
この練習をがんばつて少しでもうまくなつて一部のためにつくしまんばろう！

入部して

望月 晴文

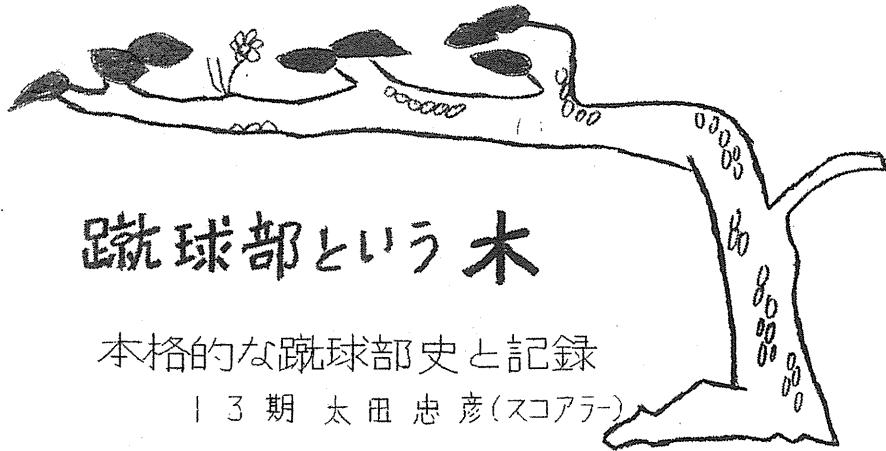
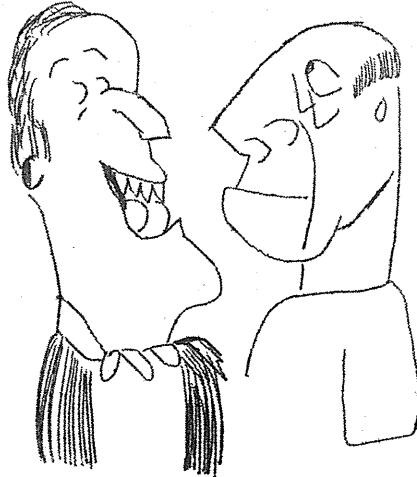
僕は蹴球部へ入部した。何故か
といふと、外から見ていても一番
練習がまとまっていて活発に感じ
たからだ。それに使用するグラン
ドが最も広いのも魅力だつた。重
労働だからといって入らなかつた
人もいたが、僕はこういう小うに
いわれるとかえつて、「ようし僕
はやつてみせるぞ。」という気持
かわいてきたのだ。

さて始めて部屋に入つてから四
ヶ月、もう部屋の空気へ臭いに
も慣れた。十余回の練習でいろいろ
思つてゐる。これは決して僕だけ
ではなく、中一の者全員が思つて
たのは何といつてもランニングの
苦しさだろう。軽くグランドを二
三周まわる位だろうと思つてい
たのが大間違い、始まつたらま
でぜんまいのおもちゃみたいにぐ
るぐる回わりだした。それも時々
調子が狂つたようにダッシュをや
る。その時は苦しいといふより驚
いた。けれども楽しかつたことも
たくさんあつた。その一つは試合
見学(見物)である。ある者は、「
早くあんなになりたいなあ。」
と思い、ある者は「あんなに暴れ
たらさそかし腹が減るだろうなあ
」と思つたりする。選手にふざけ
たやじが飛ぶのも強いからではな
いかと思ひ感心した。

僕は蹴球部へ入つてよかつたと
思つてゐる。これは決して僕だけ
ではなく、中一の者全員が思つて
いる。

いるだろう。毎一回の練習が待ちどおしいのもその証拠だと思う。苦しい練習によつて、強い体と精神力の一歩でも得ることができたのは嬉しい。そしてこの練習を終りまでやり通せたという自信は最後まで失いたくないものだ。

これからは、どんなにつまらなく感する練習でも努力を怠らずに頑張りたい。そしてできることなら早く上手になりたい。



蹴球部という木

本格的な蹴球部史と記録

13期 太田 忠彦(スコアラー)

我々は蹴球部員である。蹴球部という木の一部をなし、成そうとしている。でも現在の部員の中にはどうか。殆んどのものは、ほんの少しか知らず、又、全体が知りたいであろう。木にたとえても下の方の構造を知らなければ、上下の関係がうすくなり必然的にかれてしまう。年がたてばたつほど構造が複雑になる。一層理解していくくなる。従つて今のうちに、全容を理解し、頑丈な根を充分に利用し、偉大なる木の一成分として恥じないよう、将来一層の繁茂、結実のもとになろう。以下ここに「蹴球という木」をながめていこうと思つ。

(昭和二十六年)

をまいた。といつても全々予備構
作がなくしてポンとまいたなら、
一笑のもとにくずれあち、現在は
なかつたであらう。そこには佐野
碩大先輩（一代主将、ノ）・初期
に於ける先輩達の、想像も出来な
い程の努力が働いていたのである。
グラウンド（昔は山側にタツチラ
イン）は、夏の雑草・冬の霜とで
球等のころがる状態ではなかつた
。でも先輩達は、どうにか球をけ
ろう、思いきり走り回ろうと先ず
グラウンドの大改修を行つた。（
特に、二十七年度）次に丸太棒で塙壁
ゴルを作り、洞窟を部室とし、
ゴム製のボール（赤い風船といわ
れた）を買い入れ、いよいよ練習
開始となつた。

同年十二月二十一日、創立第一

東日本大会（関東大会）・全国大
会の事実上出発点となつた為記念
すべき価値ある一戦といつてよい

（ノリ）大敗ではあつたが、後年の

主将、穎原正美氏（ノ）

東日本大会（関東大会）・全国大

（昭和二十八年）

成長し出した若芽の發育は早か
すべき価値ある一戦といつてよい

（昭和二十八年）

一期生、佐野碩氏（主将）

三部リーグ戦優勝（高校）

（昭和二十七年）

古い芽は新しい芽の出るのを助

けるように、中学校も試合が出来
たりそき、水の恵みを受けやつと
誕生した種の上には、太陽が小
さな芽が出た。

（昭和二十九年）

同年夏、東日本大会出場、頭を

因達也氏（ノ）

もたげたばかりの部は早くも二年

（昭和二十九年）

目にして、その偉大さを現わしは

ヤニ、ヤニ、ヤニ……の芽は次々と出

（昭和二十九年）

芽した、各々の芽によつて作られ

た。三期生、6名、主将、三

位、三部リーグ優勝（高校）

（昭和二十九年）

二部リーグ昇進、4勝1敗2位

（昭和二十九年）

中学夏季大会2位、四期生、

7名、主将、泉頭篤氏（ノ）

（昭和三十年）

治（ノ）

（昭和三十年）

同年九月二十日、東郷先生正式に部長
となりれる。二期生、無し

（昭和三十年）

我等の木は神奈川県のどこから

リーグ戦 4勝1敗1分 全国

た、又色々な副産物を作った、

〔昭和三十三年〕

大会県予選決勝進出（関東1-13）

全国大会出場を記念し 加藤

前年度贈えておいたエネルギー

中学、夏季大会2位、冬季大会優

代（5）の提案で 奥田氏（7）

は多大なものであった。

勝、湘南地区大会優勝。

が「ダッシュ」という部誌を創刊

東日本大会連続出場（一回戦

五期生、5名 主将 川喜田暉

した。六期生、10名 主将

曉星 2-13）全国大会西関東予

雄氏

栗原正喜氏

選（堺崎 1-15）リーグ戦2勝

1敗2位

同年夏中学（9期）夏季大会決

勝棄権、この年から 夏季大会は

初めて実をつけた。金の実である
。横須賀の東栄光学園の片隅に立
つ木は全國に知られるようになっ
た。

27日夏の優勝校片瀬に1-0）冬

季大会2位（決勝対一甲1-13）

同年10月、第一回都市対抗が五

周年記念（実際は六周年）として

行なわれた。優勝横須賀

「ダッシュ」2号に栗原氏（3

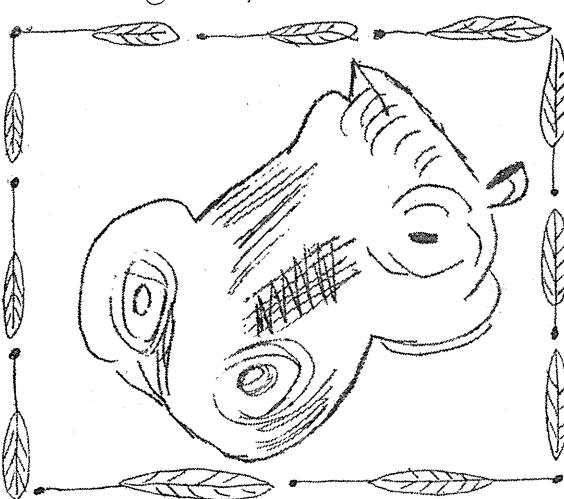
）の「The Family of Soccer」という文

が載る。以来部内では、秋原正し

我等の木は、栽培者（学校側）

に認められ、他の植物（他の部）

を平気で寄生させる程大きくなつ



く一家庭が営まれるようになつた。

ここに於て我が木は栄光の中に、一つの部初まつて以来の大敗。この確固たる根を下した。

七期生

時から国体予選は因縁つきとなつた。

10名 主将・佐々木民雄氏

〔昭和三十三年〕

我等の木にも太陽の照らない時があつた。

関東大会予選へ対吉田島農林

に学校側の意志で棄権、二れに勝てば、殆んど出場が決定するもの

であつた。この事件は、ある者を奮起させたが、逆に多くの者を行ちのめしもした。

我等の木は、のびる力を充分持つていた。太陽が照らないのは彼等の責任ではなかつた。しかし、

根(初期先輩達)からは、今まで跳球部の木はのび悩みはしたもの

でもその使い方を夏の終りまで知らなかつた。

〔昭和三十四年〕

勝白山に辛勝(10期大器)を十分に發揮、

八期生 6名 王将・加藤陸男

同年五月、蹴球部のB四十人敗退、田畠氏(9)の激励も空しく……。

らなる「栄光サッカーフラブ」を足。援助体制もボストンのオヤジさんに加えて、増え強力なものとなつた。

同年二月、石原氏(9)の力によつて、修道院のブランド氏が

時がたつにつれて貯えられた養

分は一度に、その力を發揮した。逆境といふ壁を突き破つた。

全国大会県予選決勝四年連続出

に反し、中学側の技は日を受けずついに枯れる寸前にまでなつてしまつた。

田原(9)三位決定戦へ対慶應(9)惜敗。

リーグ戦四戦全勝、全国大会県予選五年連続出場へ対鎌倉学園(9)

(5) 関東大会予選準決勝へ対小

田原(9)三位決定戦へ対慶應(9)惜敗。

我が部のコーチとして迎えられた。彼は毎試合見に来ては「ファイトとダッシュがなければ敗るんですよ。」と励まして下さった。彼も今は遠いブラジルに……。

九期生 12名 主将 石原博氏
〔昭和三十五年〕

我等の木は二度目の黄金の実をついた、九期の協力の枝、十期の

努力で団結の枝、十一期の忍耐の枝が互に織り重って、実を作ったのだ。

西Aリーグ戦六戦全勝、西プロリーグ王座決定戦で優勝へ対希望ヶ丘、関東大会初出場へ準々決勝浦和西 0-13 健闘。新人戦初優勝。

特筆すべきは10期の団結である。彼等は部活動だけでなく、学校生活に於ても、素晴らしい活躍を

彼らの大好きな勝利と言えるであろう。高校の豊作の恵みは中学にも与えられた。

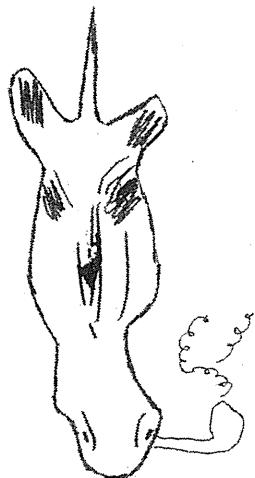
〔昭和三十六年〕

した。例えは、記念祭、クリスマスの集い等には進んで参加してそれを充実したものにし、山、海の家でも団結を示し、最後に大学受験でも好成績をおさめた、試合の為に団結するのではなく、あらゆる面で団結することによって試合が勝てるということを全員で示してくれたのだ。

もう一つは、十一期が縁の下の力となつたことである。にがい経験に耐えてきた数名の力は認めなければならないだろう。何回となくトラブルは起つた。しかし、デイスカウッショングによつて言つたい事を全部言つてしまつという気持よいものであつた。自覚による

夏季大会二回戦から棄権。しかしながら、7月六中、10月片瀬、一中と連破し、当時は秋季大会優勝と言われに程であつた。冬季大會2位へ再び一中に苦敗) 期生 16名 主将 市村俊一氏

夏季大会二回戦から棄権。しかしながら、7月六中、10月片瀬、一中と連破し、当時は秋季大会優勝と言われに程であつた。冬季大會2位へ再び一中に苦敗) 期生 16名 主将 市村俊一氏



つた時、団結がしっかりと行われていなかつたことが致命的ではなかつたか。他の枝との織り合いもいつになく不調和であつた。初期の先輩へ三期、四期、達の間にもいざこざはあつたが、話し合いによつて解決されたものであつたが……。

関東大会予選（二回戦）国体予選（準決勝）全国大会予選（準々決勝）共に敗退、三浦半島大会優勝・新人戦準優勝。
中学（13期）は、高校とは逆に固まりすぎると言われ、異常なアンバランスを生じた、従つて中学の間で、種々の疑問が生じたのは事実である。しかし彼等も上級生に逆った訳ではない。その証拠が次にあげる成績である。

夏季大会2位、藤沢一中に去年

に続いて惜敗）、冬季大会優勝、

あげられた。

十一期生、5名 主将 田島卓

也氏（前半、宮坂研一氏）
（昭和三十七年）

我等の木のまわりは、次々と同じような木が育ちはじめ、生存競争は一戸滅しくなつた。（参加チ

ームは四、五年前の二倍強）この年も、鎌学、湘南、小田原等と共に上位にはいたが、全国が見えるほどには伸びきれなかつた。

関東大会予選リーグ六戦全勝、

同県予選（準決勝、三位決定戦）惜敗。国体予選（準決勝）全国大会予選（決勝）共に完敗。新人戦（全員13期）優勝。

中学（14期）も同様なことが言える。打倒藤沢一中は公式戦で達成されなかつた。でも夏季大会2

位、冬季大会4位と一応の成績は

川、川又、のミミアスコ

このように無限な力を持つた「蹴球部」という木」は無限に伸びてもいいはずである。事実各期の先輩達はここまで伸びてきているのだから……。

泉頭氏（4）は「技には各人の限界といふものがある。でも気力は各人の努力によつていくらでも出せる」と言つている。

時には内部から、時には外部からの妨害があるかも知れない。でも我々と同じ年にあつた諸先輩は、それそれの力で乗り越えてきたのである。だから我々にも出来るはずである。

可能性は全部実現しよう。輝く部史をつづってゆこう。

年 度	試 合 数	勝	敗	分	勝 率	得 点	失 点	一 試 合 得 失
26	1	0	1	0	0.000	0	11	0 11
27	9	2	6	1	0.250	7	20	0.8 2.2
28	15	8	5	2	0.615	42	18	2.8 1.2
29	19	14	4	1	0.778	65	23	3.4 1.2
30	16	9	5	2	0.643	39	28	2.4 1.8
31	31	23	5	3	0.821	96	45	3.1 1.5
32	23	15	8	0	0.652	56	31	2.8 1.3
33	20	11	5	4	0.550	53	19	2.7 1.0
34	18	12	5	1	0.706	51	26	2.8 1.4
35	30	26	4	0	0.867	79	24	2.6 0.8
36	19	12	6	1	0.632	78	30	4.1 1.6
37	27	20	7	0	0.741	111	42	4.1 1.6
計	228	152	61	15	0.714	677	317	3.0 1.4

対戦成績(37年度 3月)

鎌学	13	勝 14	敗 1	分
小田原	4	勝 6	敗	
湘南	6	勝 6	敗 2	分
茅ヶ崎	13	勝 1	敗 1	分
丫校	4	勝 2	敗	
慶応	6	勝 2	敗	
川崎	8	勝 0	敗	
希望丘	7	勝 3	敗	
翠嵐	8	勝 2	敗	
関東	5	勝 3	敗 2	分
県鎌	9	勝 1	敗 1	分
相洋	6	勝 2	敗 2	分
藤沢	6	勝 3	敗	
緑ヶ丘	5	勝 0	敗	

年 度	試 合 数	勝	敗	分	勝 率	得 点	失 点	一 試 合 得 失
28	10	3	2	5	0.300	14	9	1.4 0.9
29	12	9	2	1	0.818	41	5	3.4 0.4
30	14	11	2	1	0.846	36	11	2.6 0.8
31	12	10	1	1	0.910	28	5	2.3 0.4
32	18	13	4	1	0.765	55	16	3.1 0.9
33	9	8	1	0	0.889	26	5	2.9 0.6
34	9	4	4	1	0.500	21	9	2.3 1.0
35	12	10	2	0	0.833	54	12	4.5 1.0
36	15	13	2	0	0.867	93	14	4.9 0.9
37	14	9	4	1	0.692	35	14	2.5 1.0
計	125	90	24	11	0.789	383	100	3.1 0.8

対戦成績(31年度～37年度)

藤沢一	7	勝 10	敗 2	分
六角橋	7	勝 1	敗	
片瀬	9	勝 2	敗	
聖光	3	勝 1	敗	
白山	3	勝 1	敗	
横学	4	勝 0	敗	
千代	2	勝 1	敗	
三崎	3	勝 0	敗	
市場	2	勝 1	敗	
舞岡	0	勝 1	敗 1	分

D
A
S
H

13期 渡辺 浩

やることになつた。それでぼくのダツシユに対する考え方をしてみたいと思う。カーにダツシユをあまやかさないこと。今までダツシユにはいろいろのサッカートに關係のない文芸ものが載ることも多かつた。それ 자체は悪いものではないが、中一から高三までの者が謊むダツシユにおいては、高校生の書いたものは中学生に理解出来ず、また中学生の書いたものは高校生には馬鹿らしいということがなつてしまふ。そして、十期中前

為、などという言葉は実際には初
上の空論であると思う。このよう
なわけで、ぼくはダツシユには從
いこととした。そして皆の共通の
興味があつまる、サツカーニのこ
サツカーネ部のこと、部員達のこと
等に関するものだけを載せたいと
思う。従つて今まで幾分軽視され
る傾向にあつた試合報告、その批
評などを強化したいと思う。どう
しても文芸ものを書きたい人は、
雑誌にでも投稿したらよからう。
また、それで少しでも余った金
はボール等にまわしたいと思う。
第三に部員をあまでかさないこ
と、ダツシユの金の扱いは、昔か
ら非常に悪い。彼らは金がなくて
払わないのではない。たかが二円
な小雑誌の代金ぐらい払をなくて

だれがこんな横領賃くんだりの学校まで高い電車賃を払つてくるものではない。では、何故か。一説にはなかなか金を払わないのはアウトローみたいでカツコイイからだといい、また一説にはハンサムなダッシュ編集員をひがんで困らせるためだともいう。彼等がどう思おうと勝手だが、こちとらはそういう迷惑である。金はすぐ払うこと。第三に販路をひろげようということ。それで今号から先輩諸氏にも郵送してバリバリ買つていただこうと思う。

今号はまだ不慣れなせいもあつて、前からいろいろと思つていたことで実現できなかつたことが多かつた。後つた一号はがんばるつもりである。協力を願う次第。

う二と、それで今号から先輩諸氏にも郵送してバリバリ買つていただこうと思う。

今号はまだ不慣れなせいもあつて、前からいろいろと思つていたことで実現できなかつたことが多かつた。後つた一号はがんばるつもりである。協力を願う次第。

ニュース

トピック

高二の練習をどうするかなどがきめられた。またこの際11期宮坂氏の部内のいろいろの不文律を成文化したものを、一般法として発表した。

なわれた。スコアは2対2で引き分け。試合が終った後の高二の話「二つからは九人だけだし、近頃は野球部の方がよくサッカーをやっているんだ。」

○

一月二十六日、長い間の懸案であった部室の靴を置く棚が完成した。その材料の木材は全て13期太田君のお父様の寄附によるものでしたから、自動車で学校に運んでくださいましたものである。設計は学校の大工の人、制作は13期太田・山本・中村君の三人によった。革靴は上段に、スパイクは下段に置くこと。

○

一月十四日、一時三十分から高校のディスカッションが行なわれた。これにより各係の仕事、及び

員と野球部とのサッカー試合が行なわれた。スコアは2対2で引き分け。試合が終った後の高二の話「二つからは九人だけだし、近頃は野球部の方がよくサッカーをやっているんだ。」

○

二月八日、四時十八分から高校ディスカッションが行なわれた。これは吉田新政の検討といつたもので、決まったことは次の通り。
α シュートイングの時はボールを出す者より先に蹴る者が声を出すこと。

七土旺日の練習開始は一時三十分

○

C 放課後の練習は各人自分の練習をしてよい。

○

○ Bとして活躍されることを、

○

一月十九日 15期試合結果

E	K	O	対	岩崎	0
1	3	0	対	一	0
E	K	O	対	六	0

E	K	O	対	中	0
2	2	0	対	六	0
E	K	O	対	二	0

年 度 =

成績

= 中道 =

月日	会場	相手校	種類	得失	勝敗	勝率
1. 20	聖光グ	聖光	練習試合	1 - 4	○	.000
6. 2	栄光グ	六角橋	"	0 - 3	○	.000
6. 10	一中グ	一中	"	1 - 0	○	.333
7. 22	保土ヶ谷	鎌倉一中	県大会 一回戦	2 - 0	○	.500
"	"	平間	二回戦	2 - 1	○	.600
7. 23	"	六角橋	" 準決勝	1 - 0	○	.667
7. 24	"	一中	" 決勝	0 - 1	○	.571
9. 22	栄光グ	舞岡	練習試合	0 - 0	△	
11. 18	片中グ	芦瀬	"	7 - 0	○	.625
12. 23	一中グ	浅野	県大会 一回戦	7 - 0	○	.667
12. 25	県営ローン	大野南	二回戦	3 - 0	○	.700
"	" クレー	三崎三中	準々決	7 - 0	○	.727
12. 24	"	舞岡	準決勝	1 - 1	(○)	
"	県営ローン	一中	練習試合	1 - 1	○	.667
計	14 戰	8 勝 4 敗 2 分け		32 - 16	6割6分7厘	

注： 1月20日の聖光との試合は11号のダッシュの記録にはいっていたが、ここに訂正し、37年度の記録にいれる。

— 昭和 37 —

総合

— 高校 —

月日	会場	相手校	種類	得失	勝敗	勝率
1. 28	翠嵐グ	翠 嵐	練習試合	6 - 1	○	1.000
2. 10	湘南グ	Y 校	新人戦一回戦	5 - 1	○	1.000
11	県営ローン	鎌 学	" 二 "	2 - 1	○	1.000
17	"クレー	希望が丘	" 準々	6 - 0	○	1.000
18	"ローン	茅ヶ崎	準決	1 - 2	◎	0.800
3. 23	湘南グ	湘 南	練習試合	1 - 1	△	
4. 29	栄光グ	鎌 学	"	0 - 3	●	0.667
5. 3	関東グ	聖 光	関東大会予選リーダ	8 - 1	○	0.714
5.	"	関 東	"	6 - 0	○	0.750
6.	栄光グ	神 工	"	9 - 0	○	0.778
13	三沢グ	浅 野	"	2 - 1	○	0.800
27	栄光グ	聖 嵐	"	8 - 2	○	0.818
6. 3	三沢グ	希望が丘	"	4 - 1	○	0.833
23	県営ローン	慶 応	関東大会予選準々	2 - 0	○	0.846
24	"	鎌 学	" 準決	2 - 4	●	0.786
30	"	小 田 原	" 三位決定	1 - 2	●	0.733
7. 15	栄光グ	三 水	三浦半島大会	8 - 0	○	0.750
"	"	横 等	"	13 - 0	○	0.765
8. 19	県営クレー	相 洋	国体二回戦	4 - 2	○	0.778
20	" ローン	法 政	ニ 準々	3 - 1	○	0.789
22	"	湘 南	" 準決	0 - 4	●	0.750
10. 21	栄光グ	鎌 学	練習試合	5 - 6	●	0.714
11. 11	県営クレー	川 崎	全国大会予選二回戦	9 - 1	○	0.727
17	" ローン	神 工	" 準々	4 - 1	○	0.739
18	"	茅ヶ崎	" 準決	1 (ワシ) (○)		
24	"	小 田 原	" 決勝	1 - 4	●	0.708
12. 21	県営クレー	早大愛好会	練習試合	0 - 1	●	0.680
計	27戦	17勝 8敗 2分け		111 - 45	6割 8分	

表紙の言葉



○朝のゴール前にも霜は見られなくなり、グランドの芝生を大きく背のびして息づき始めた。○我がサッカー部も新役員を決定した今、新年度をむかえ、大きく飛躍しようとしている。

編集後記



○これからのは長くなり、太陽の大きさも驚くばかりになる。練習の終るころのグランドに、流まんとする太陽がゴールポストや我々の全てを黒くぬりつぶしていく。この虚無感は激しい練習で疲れ切った身体から安らぎと明日への闘志を見つけてくれる。

顧問・中川	渡辺相馬	D A S H	昭和三十八年四月一日印刷
内倉川祐	辺正亮	発行所	昭和三十八年四月八日発行
輔謙	新倉川浩一	編集員	発行所
		光学園サッカー部	

○今号の焦点は太田君の労作『蹴球部』という本です。彼はその為に書き持った気持ちでお互を知ろうとしたものである。

○今号の焦点は太田君の労作『蹴球部』という本です。彼はその為に記録のノートまで作ったほどです。

○『部員の母』さんの文章は読みましたか。『部員の母さん』はキャブテン吉田君のお母様です。

○編集を終つて一首詠める

編集のすんだ原稿手にもてば

できたグッシュの表紙目に
ひきしめて、来号を華々しくやろ
うというコンタンです。それに來
号は中学の優勝記事と高校の関東
大会県外遠征の記事をも載せなけ
ればならないからです。